2021年度
大学院経済学研究科
シラバス

西南学院大学大学院

講義科目一覧

ミクロ経済学 IA〔仲澤　幸壽〕 ……

ミクロ経済学 IB〔仲澤　幸壽〕 ……

ミクロ経済学 IIA〔平井　秀明〕 ……

ミクロ経済学 IIB〔平井　秀明〕 ……

マクロ経済学 A〔三宅　伸治〕 ……

マクロ経済学 B〔三宅　伸治〕 ……

計量経済学 A〔瀧井　貞行〕 ……

計量経済学 B〔瀧井　貞行〕 ……

経済思想史 A〔江里口　拓〕 ……

経済思想史 B〔江里口　拓〕 ……

日本経済史 A〔小野　浩〕 ……

日本経済史 B〔小野　浩〕 ……

西洋経済史 A〔花田　洋一郎〕 ……

西洋経済史 B〔花田　洋一郎〕 ……

労働経済学 A〔伊佐　勝秀〕 ……

環境経済学 A〔小出　秀雄〕 ……

環境経済学 B〔小出　秀雄〕 ……

経済地理学 A〔山村　英司〕 ……

経済地理学 B〔山村　英司〕 ……

世界経済論 A〔尹　春志〕 ……

世界経済論 B〔尹　春志〕 ……

国際経済政策 A〔本間　正義〕 ……

国際経済政策 B〔本間　正義〕 ……

アメリカ経済論 A〔立石　剛〕 ……

アメリカ経済論 B〔立石　剛〕 ……

世界経済論演習 〔立石　剛〕 ……

東南アジア経済論 A〔東　茂樹〕 ……

東南アジア経済論 B〔東　茂樹〕 ……

資源経済論 A〔河村　朗〕 ……

資源経済論 B〔河村　朗〕 ……

統計学A〔中馬　正博〕 ……
統計学B〔中馬　正博〕 ……
社会保障論A〔熊谷　成将〕 ……
社会保障論B〔熊谷　成将〕 ……
財政学A〔近藤　春生〕 ……
財政学B〔近藤　春生〕 ……
金融論A〔相模　裕一〕 ……
金融論B〔相模　裕一〕 ……
金融論演習〔相模　裕一〕 ……
外国語資料分析〔相模　裕一〕 ……
学位論文指導Ⅰ〔相模　裕一〕 ……
経済学研究指導〔相模　裕一〕 ……
証券投資論A〔丹波　靖博〕 ……
証券投資論B〔丹波　靖博〕 ……

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学ＩＡ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	仲澤　幸壽			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義のテーマは、人工知能等の普及によってもたらされると予測される新たな経済システムの理論モデルに基づく予測です。到達目標は、大学院の修士レベルでその予測を実施する上で必要となる新たな経済モデルの構築に必要なミクロ経済学の理論に習熟することにあります。

【講義概要】

講義ではテキストは指定せずに、講義概要を記したプリントを配布し、それにしたがって各項目を解説します。それど同時に、事前と事後に読んでおくことが求められる文献を指示します。このミクロ経済学ＩＡでは、講義のテーマのうち、効用関数、生産関数の解説に加えてモデルの動学化の基礎を解説します。最後に習熟の程度を測るための課題を提出してもらいます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ミクロ経済学の特性
2	1次同次関数の諸性質
3	コブ・ダグラス型関数とCES型関数
4	それら以外の1次同次関数の具体例
5	静学的モデルにおける効用関数
6	モデルの動学化と期待形成の考え方
7	期間分析における効用関数
8	連続分析における効用関数
9	静学的モデルにおける生産関数
10	期間分析における企業行動―生産関数と投資関数
11	連続分析における企業行動―生産関数と投資関数
12	期間分析―重複世代モデル
13	連続分析―新古典派成長モデル
14	2部門動学モデル
15	課題の解説

【テキスト】

なし

【参考書・参考資料等】

その都度、読むべき参考文献を指示します。

【事前・事後学習、時間等】

指示した文献を読んで疑問点を明らかにしてくること（2時間）。解説を参考に疑問点を解消してモデルの例を確認すること（2時間）。

【課題の種類・内容】

講義での応用分析例を参考に分析する課題を出し、レポートして提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートの内容に関してメールを通じてコメントをします。

【成績評価方法・基準】

講義で確認するミクロ経済学理論の修得度合60%、レポートの内容40%で評価を決めます。

【履修上の注意】

理論の解説が中心の講義なので、一定レベル以上の経済数学の知識が必要です。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学ＩＢ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	仲澤　幸壽			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義のテーマは、人工知能等の普及によってもたらされると予測される新たな経済システムの理論モデルに基づく予測です。到達目標は、大学院の修士レベルでその予測を実施する上で必要となる新たな経済モデルの構築に必要なミクロ経済学の理論に習熟することにあります。

【講義概要】

講義ではテキストは指定せずに、講義概要を記したプリントを配布し、それにしたがって各項目を解説します。それど同時に、事前と事後に読んでおくことが求められる文献を指示します。このミクロ経済学ＩＢでは、講義のテーマのうち、モデルの動学化と新たなゲームモデルを用いて、AI時代の経済システムへの移行プロセスの考察を試みます。最後に、独自に簡単なモデルを作る課題を提出してもらいます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ミクロ経済学ＩＡの復習
2	新たな経済システムの可能性
3	ベーシックインカムとは何か
4	ベーシックインカムへの移行プロセスの問題点（1）：財源問題
5	ベーシックインカムへの移行プロセスの問題点（2）：社会保障システム
6	モデル化の試み（1）：既存の税を財源とするケース
7	モデル化の試み（2）：財源として新たな税を導入するケース
8	モデル化の試み（3）：税以外の財源のケース
9	モデル化の試み（4）：積立方式年金のケース
10	モデル化の試み（5）：賦課方式年金のケース
11	ベーシックインカムへの移行プロセスの問題点（3）：勤労モラルへの影響
12	ベーシックインカムへの移行プロセスの問題点（4）：企業経営者の意識
13	ベーシックインカムへの移行プロセスの問題点（5）：その他の所得獲得方法
14	多段階モデルによる移行プロセスのモデル化の試み
15	課題の説明

【テキスト】

なし

【参考書・参考資料等】

その都度、読むことが必要な文献を指示します。

【事前・事後学習、時間等】

指定された文献を読んで疑問点を明らかにすること（2時間）。解説を参考に疑問点を解消してモデル化の試みを考察すること

【課題の種類・内容】

講義で解説するモデル化の例を参考に、指示されたテーマでのレポート作成があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

最終回にレポートの評価をし、アドバイスを行います。

【成績評価方法・基準】

講義の時に確認するミクロ経済学の理論の理解度60%、レポートの内容40%で評価を決めます。

【履修上の注意】

理論の解説が中心の講義なので、一定レベル以上の経済数学の知識が必要です。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科

講義科目名	ミクロ経済学ⅡA	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	平井　秀明			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義の到達目標は，大学院の修士レベルでの研究を実施する上で必要となるミクロ経済学の基礎理論のうち，ゲーム理論について修得することにあります．単に理論を理解するだけでなく，実際に経済問題に応用して分析する方法を身につけてもらうことが重要であり，それが講義のテーマになります．

【講義概要】

テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める．

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	ゲーム理論への招待 #1：ゲーム理論とは何か
3	ゲーム理論への招待 #2：ゲーム理論による経済学の静かな革命
4	戦略形ゲームの基礎 #1：戦略形ゲームと利得行列
5	戦略形ゲームの基礎 #2：戦略形ゲームを解く
6	戦略形ゲームの基礎 #3：予想の先に行きものーナッシュ均衡
7	戦略形ゲームの応用 #1：弱支配戦略と支配されないナッシュ均衡
8	戦略形ゲームの応用 #2：支配された戦略の繰り返し削除
9	混合戦略 #1：混合戦略とナッシュ均衡
10	混合戦略 #2：2×2の混合戦略のナッシュ均衡を求める
11	完全情報の展開形ゲーム #1：展開形ゲーム
12	完全情報の展開形ゲーム #2：完全情報展開形ゲームの応用
13	一般の展開形ゲーム #1：不完全情報の展開形ゲーム
14	一般の展開形ゲーム #2：展開形ゲームの構成要素と部分ゲーム完全均衡
15	一般の展開形ゲーム #3：展開形ゲームと戦略形ゲームの関係

【テキスト】

渡辺隆裕(2008)『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社．

【参考書・参考資料等】

神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社．

【事前・事後学習、時間等】

・事前にテキストを十分に読み，自身の手を動かしながら図表や数式の展開を追うこと．(90分)
・講義で取り扱われた理論について，さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること．(90分)

【課題の種類・内容】

理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課す．

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは返却して，添削及びコメント行う．

【成績評価方法・基準】

講義の時に確認する理論の理解度60%，レポートの内容40%で評価を決めます．

【履修上の注意】

学部レベルのミクロ経済学，経済数学の知識があることが望ましい．

2021年度大学院シラバス

経済学研究科

講義科目名	ミクロ経済学ⅡB	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	平井　秀明			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義の到達目標は，大学院の修士レベルでの研究を実施する上で必要となるミクロ経済学の基礎理論のうち，ゲーム理論について修得することにあります．単に理論を理解するだけでなく，実際に経済問題に応用して分析する方法を身につけてもらうことが重要であり，それが講義のテーマになります．

【講義概要】

テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める．

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	不完全競争市場への応用 #1：完全競争市場とゲーム理論の発展，独占市場での企業行動
3	不完全競争市場への応用 #2：クールノー競争
4	不完全競争市場への応用 #3：ベルトラン競争
5	不完全競争市場への応用 #4：シュタッケルベルグ競争
6	時間経過と長期的関係 #1：割引因子による利得の計算，交渉の要因と交互提案ゲーム
7	時間経過と長期的関係 #2：有限回の繰り返しゲーム
8	時間経過と長期的関係 #3：無限回の繰り返しゲームと協力の達成
9	不完備情報の戦略形ゲーム #1：不完備情報ゲームの基礎
10	不完備情報の戦略形ゲーム #2：不完備情報の複占競争
11	不完備情報の戦略形ゲーム #3：ベイズの定理とベイズゲーム
12	不完備情報の展開形ゲーム #1：不完備情報の展開形ゲームと完全ベイズ均衡
13	不完備情報の展開形ゲーム #2：シグナリング
14	不完備情報の展開形ゲーム #3：完全ベイズ均衡の詳細
15	不完備情報の展開形ゲーム #4：完全ベイジアン均衡の精緻化

【テキスト】

渡辺隆裕(2008)『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社．

【参考書・参考資料等】

神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社．

【事前・事後学習、時間等】

・事前にテキストを十分に読み，自身の手を動かしながら図表や数式の展開を追うこと．(90分)
・講義で取り扱われた理論について，さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること．(90分)

【課題の種類・内容】

理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課す．

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは返却して，添削及びコメント行う．

【成績評価方法・基準】

講義の時に確認する理論の理解度60%，レポートの内容40%で評価を決めます．

【履修上の注意】

学部レベルのミクロ経済学，経済数学の知識があることが望ましい．

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	マクロ経済学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	三宅伸治			

【講義の到達目標及びテーマ】

前期課程の研究を進めるために必要なマクロ経済理論を修得することを目標とします.

【講義概要】

主に代表的個人モデルを教科書に沿って丁寧に解説します. 必要な数学はその都度解説します.

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	マクロ経済モデルの座標軸:学部で学ぶマクロ経済学と大学院で学ぶマクロ経済学のギャップについて
3	合理的期待形成仮説
4	資産価格と資本蓄積
5	新古典派成長モデルの実証的含意
6	市場調整の失敗:世代重複モデルを通して
7	消費の恒常所得仮説
8	資産価格決定モデルの基本的な考え方
9	消費パターンの平準化と資産価格
10	不確実性と資産価格
11	資産市場と情報の伝達
12	資産価格決定モデルの実証研究
13	世代重複モデルにおける完備市場取引
14	完備市場における取引制約と集計問題
15	集計リスクの集中とリスク・プレミアム

【テキスト】

授業中に指示します.

【参考書・参考資料等】

授業中に指示します.

【事前・事後学習、時間等】

予習として, 毎回指定した範囲を時間をかけて読み, 理解できない箇所を整理しておいてください. 復習として予習段階での疑問点を解決できたかどうかを確認してください.

【課題の種類・内容】

一定の範囲が終わったあと, 理解を確認するためのクイズを出します.

【課題に対するフィードバックの方法】

その場でクイズの答を提示し, 理解が深まるよう議論します.

【成績評価方法・基準】

試験60%. 授業中の簡単なクイズ(事前にアナウンスします)40%. 評価基準は次の通りです. (1)それぞれの経済モデルがどのような経済現象を説明しようとしているか理解している. (2)それぞれの経済モデルの主要な結論を論理的に説明できる.

【履修上の注意】

数学がそれほど得意でなくても, 時間をかければ理解可能な内容です. ただし, じっくりと考え, 実際に手を動かして計算し, グラフを描く等の努力が必要です. 参加者と相談の上, 内容を若干変更する場合があります.

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	マクロ経済学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	三宅伸治			

【講義の到達目標及びテーマ】

前期課程の研究を進めるために必要なマクロ経済理論を修得することを目標とします.

【講義概要】

マクロ経済学Aの履修を前提にして教科書の第4章から第6章までを解説します. 労働市場, インフレーションなどのトピックスを教科書に沿って丁寧に解説します. 必要な数学はその都度説明します.

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	新古典派成長モデル:理論と実際
2	協調の失敗(1):静学モデル
3	協調の失敗(2):動学モデル
4	内生的成長モデル
5	貨幣的景気循環モデル(1)情報の不完全性と金融政策
6	貨幣的景気循環モデル(2)名目価格の硬直性と金融政策
7	貨幣的景気循環モデル(3)外部性と名目価格の硬直性
8	貨幣的景気循環モデル(4)貨幣理論のサーチ的アプローチ
9	物価水準とインフレーションの理論
10	景気循環のコスト
11	資本所得課税と資本蓄積
12	インフレーションの厚生費用
13	期待形成と経済政策:フィリップス曲線
14	複数均衡と経済政策
15	モラルハザードと経済政策

【テキスト】

齋藤誠,『新しいマクロ経済学[新版]』, 有斐閣, 2006年.

【参考書・参考資料等】

授業中に指示します.

【事前・事後学習、時間等】

予習として, 毎回指定した範囲を時間をかけて読み, 理解できない箇所を整理しておいてください. 復習として予習段階での疑問点を解決できたかどうかを確認してください.

【課題の種類・内容】

各章が終わったあと, 理解を確認するためのクイズを出します.

【課題に対するフィードバックの方法】

その場でクイズの答を提示し, 理解が深まるよう議論します.

【成績評価方法・基準】

試験60%. 授業中の簡単なクイズ(事前にアナウンスします)40%. 評価基準は次の通りです. (1)それぞれの経済モデルがどのような経済現象を説明しようとしているか理解している. (2)それぞれの経済モデルの主要な結論を論理的に説明できる.

【履修上の注意】

数学がそれほど得意でなくても, 時間をかければ理解可能な内容です. ただし, じっくりと考え, 実際に手を動かして計算し, グラフを描く等の努力が必要です. 参加者と相談の上, 内容を若干変更する場合があります.

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	計量経済学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	瀧井　貞行			

【講義の到達目標及びテーマ】

計量分析を行う際に必要となる，統計量の計算方法，その考え方，分析結果の解釈の方法を身に付ける。

【講義概要】

計量経済学の基礎知識を学ぶ。また受講生の研究テーマに合わせた分析事例を参考にしながら実際にデータを扱い計算プログラムを作成することで，実証分析に基づいた論文作成のための技能についても学ぶ。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	最小自乗法
3	線形回帰モデルの標準的仮定
4	t値，標準誤差，F値，決定係数
5	関数型，ダミー変数と結果の解釈
6	重回帰モデルの応用例1：線形モデル
7	重回帰モデルの応用例2：対数線形モデル
8	重回帰モデルの応用例3：ダミー変数の利用
9	多重共線性の問題
10	不均一分散とWhiteの分散推定量
11	説明変数と撹乱項の相関
12	最尤推定法
13	LogitとProbit
14	TobitとHekit
15	まとめ

【テキスト】

浅野晳・中村二朗『計量経済学』(第2版)(有斐閣、2009年)

【参考書・参考資料等】

松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 —経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』
(第2版，東京図書株式会社、2015年)

【事前・事後学習、時間等】

授業終了時に次回のテキスト範囲を指定するので，そこを熟読してくること

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

試験(50%)，平常点(50%，小テスト，レポート)

【履修上の注意】

学部の統計学，経済数学の復習をしておくこと

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	計量経済学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	瀧井　貞行			

【講義の到達目標及びテーマ】

計量分析を行う際に必要となる，統計量の計算方法，その考え方，分析結果の解釈の方法を身に付ける。

【講義概要】

計量経済学の基礎知識を学ぶ。また受講生の研究テーマに合わせた分析事例を参考にしながら実際にデータを扱い計算プログラムを作成することで，実証分析に基づいた論文作成のための技能についても学ぶ。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	実証分析に基づいた論文の書き方
3	データの収集と整理
4	図表の作成と結果の解釈
5	時系列分析の紹介
6	単位根検定と共和分分析
7	時系列モデルを用いた分析事例
8	パネルデータ分析の紹介
9	パネルデータ分析のためのプログラミング
10	仮説，検定方法と解釈
11	レポートの作成について
12	レポート作成のための準備
13	レポートの報告
14	レポートの改訂
15	まとめ

【テキスト】

浅野晳・中村二朗『計量経済学』（第2版）（有斐閣、2009年）

【参考書・参考資料等】

松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 —経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』（第2版，東京図書株式会社、2015年）

【事前・事後学習、時間等】

授業終了時に次回のテキスト範囲を指定するので，そこを熟読してくること

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

試験（50%），平常点（50%，小テスト，レポート）

【履修上の注意】

学部の統計学，経済数学の復習をしておくこと

2020年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	経済思想史A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	江里口 拓			

【講義の到達目標及びテーマ】

福祉国家の経済思想史をテーマにする。経済思想の歴史的変遷についての知識・理解を深め、歴史に応じた経済学の変化という思考を身につけ、経済学が今後も変化するとしてその方向について創造性を涵養し、現在の経済学への相対的な批判的態度を身につける。そのことでアカデミックな課題を発見し、自分自身で解決するスキル取得を目指す。

【講義概要】

経済学の黎明期である古典派経済学の時代に、利己心、市場原理、功利主義、自由貿易、効用の質など様々な論点について、現代の問題関心とも関連させて理解する。テキストを読み、対話法的議論を行うことで理解を深める。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	はじめに
2	アダムスミス　見えざる手
3	アダムスミス　市場原理
4	アダムスミス　博愛主義
5	リカードとマルサス　穀物法
6	リカードとマルサス　人口法則
7	リカードとマルサス　救貧法
8	ベンサム　功利主義とは（1）快楽主義
9	ベンサム　功利主義とは（2）最大多数の最大幸福
10	ベンサム　平等主義
11	ベンサム　救貧法
12	J.S.ミル　ミルの時代
13	J.S.ミル　功利主義批判
14	J.S.ミル　自由論
15	まとめ

【テキスト】

小峯敦編『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版、2018年

【参考書・参考資料等】

なし

【事前・事後学習、時間等】

講義計画欄の各回の授業内容に気合いされている教科書の該当ページを講義前に必ず予習してくること。2時間程度。

【課題の種類・内容】

期末レポートは課さないが、講義の際に、議論への積極参加と自己の意見の提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

その都度，講義中に回答を行う。対話法のなかで示していく。

【成績評価方法・基準】

対話的な議論の中で、課題を正確に理解し（50%）、自分の意見を形成できているか（50%）を重視する。

【履修上の注意】

福祉国家の諸問題について日頃から現代的な関心を持っておくことが望ましい。

2020年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	経済思想史B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	江里口 拓			

【講義の到達目標及びテーマ】

福祉国家の経済思想史をテーマにする。経済思想の歴史的変遷についての知識・理解を深め、歴史に応じた経済学の変化という思考を身につけ、経済学が今後も変化するとしてその方向について創造性を涵養し、現在の経済学への相対的な批判的態度を身につける。そのことでアカデミックな課題を発見し、自分自身で解決するスキル取得を目指す。

【講義概要】

経済学の成熟期である19世紀末以降の新古典派経済学を中心に、限界効用、効用の個人間比較、ナショナルミニマム、人的資本概念など、これを超克する形で出てきた経済思想について、理解を深める。

No.	講義計画
1	はじめに
2	マーシャル　企業者とは
3	マーシャル　高賃金の経済
4	マーシャル　経済騎士道
5	ホブソン　過少消費説
6	ホブソン　帝国主義論
7	ホブソン　人間と福祉
8	ウェッブ夫妻　ナショナル・ミニマム
9	ウェッブ夫妻　国際競争力
10	ケインズ，ベヴァリッジ　有効需要論
11	ケインズ，ベヴァリッジ　社会保障論
12	ケインズ，ベヴァリッジ　福祉国家体制
13	社会保障改革の必要性
14	社会保障改革の必要性具体策
15	まとめ

【テキスト】

小峯敦編『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版、2018年

【参考書・参考資料等】

【事前・事後学習、時間等】

講義計画欄の各回の授業内容に気合いされている教科書の該当ページを講義前に必ず予習してくること。2時間程度。

【課題の種類・内容】

期末レポートは課さないが、講義の際に、議論への積極参加と自己の意見の提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

その都度，講義中に回答を行う。対話法のなかで示していく。

【成績評価方法・基準】

対話的な議論の中で、課題を正確に理解し(50%)、自分の意見を形成できているか(50%)を重視する。

【履修上の注意】

福祉国家の諸問題について日頃から現代的な関心を持っておくことが望ましい。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	日本経済史A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	小野　浩			

【講義の到達目標及びテーマ】

日本経済の歴史を理解し、歴史分析の手法を身につけることを目標とする。

【講義概要】

経済学研究科で研究を進めるうえで、経済の歴史を理解することは有用である。本講義では、近世から現代までの日本経済史の流れを輪読形式で学ぶ。受講生にはテキストの精読と入念な報告準備が求められる。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	第1章　近世の成立と全国市場の展開（1.0～1.1）　※括弧内は節の番号
3	第1章　近世の成立と全国市場の展開（1.2～1.4）
4	第2章　田沼時代から松方財政まで（2.0～2.2）
5	第2章　田沼時代から松方財政まで（2.3～2.4）
6	第3章　松方デフレから第1次世界大戦まで（3.0～3.1）
7	第3章　松方デフレから第1次世界大戦まで（3.2～3.4）
8	第4章　第1次世界大戦から昭和恐慌期まで（4.0～4.1）
9	第4章　第1次世界大戦から昭和恐慌期まで（4.2～4.3）
10	第4章　第1次世界大戦から昭和恐慌期まで（4.4～4.5）
11	第5章　戦時経済から民主化・復興へ（5.0～5.2）
12	第5章　戦時経済から民主化・復興へ（5.3～5.4）
13	第6章　高度成長から平成不況まで（6.0～6.1）
14	第6章　高度成長から平成不況まで（6.2～6.4）
15	研究成果（レポート）の発表

【テキスト】

浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか（2017）『日本経済史　1600－2015　歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会

【参考書・参考資料等】

適宜、紹介する。

【事前・事後学習、時間等】

授業計画の該当する範囲を精読のうえ、報告の準備（要約、論点整理等）をしておくこと（3時間程度）。

【課題の種類・内容】

日本経済の歴史に関する独自のテーマを設定し、歴史分析の手法を用いてレポートを制作すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

後日、レポートの講評を行う。

【成績評価方法・基準】

各回の報告・質問等（70%）、レポート（30%）。

【履修上の注意】

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	日本経済史B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	小野　浩			

【講義の到達目標及びテーマ】

戦前期日本の地方企業（鉄道会社・電力会社）と地域社会に関する事例研究の文献を読み比べ、日本経済史・経営史の基礎知識と研究手法を身につけることを目標とする。

【講義概要】

経済学研究科で研究を進めるうえで、経済・経営の歴史を理解することは有用である。本講義では、戦前期の地方企業と地域社会との関係について、企業の設立・資金調達・企業統治等の視点から論じた2冊のテキストを輪読形式で学ぶ。受講生にはテキストの精読と入念な報告準備が求められる。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	テキスト(1)　序章　課題と方法　／　テキスト(2)　序章　課題と方法
3	テキスト(1)　第1章　企業勃興期における地方企業の設立と人的ネットワーク
4	テキスト(1)　第2章　産業革命期の地方における企業経営と株主
5	テキスト(1)　第3章　日露戦後における地方企業の設立
6	テキスト(1)　第4章　第一次世界大戦における地方企業の経営と企業統治
7	テキスト(1)　第5章　第一次世界大戦ブーム期における資産家の投資行動
8	テキスト(1)　第6章　第一次世界大戦後における地方企業の設立と企業家
9	テキスト(1)　第7章　戦間期における地方企業の展開　／　終章　結論
10	テキスト(2)　第1章　上武鉄道の設立活動と鉄道実務者
11	テキスト(2)　第2章　上武鉄道の経営展開と地方零細株主
12	テキスト(2)　第3章　戦前期秩父鉄道にみる資金調達と企業者活動
13	テキスト(2)　第4章　北武鉄道の設立と秩父鉄道
14	テキスト(2)　第5章　戦間期秩父鉄道の貨物輸送と地方株主
15	テキスト(2)　第6章　戦間期秩父鉄道の経営と三峰神社への路線延伸　／　終章　要約と総括

【テキスト】

(1)石井里枝(2013)『戦前期日本の地方企業―地域における産業化と近代経営』日本経済評論社
(2)恩田睦(2018)『近代日本の地域発展と鉄道―秩父鉄道の経営史的研究』日本経済評論社

【参考書・参考資料等】

浜野潔ほか(2017)『日本経済史　1600－2015　歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会

【事前・事後学習、時間等】

授業計画の該当する範囲を精読のうえ、報告の準備（要約、論点整理等）をしておくこと(3時間程度)。

【課題の種類・内容】

日本企業の経営史に関する独自のテーマを設定し、歴史分析の手法を用いてレポートを制作すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

後日、レポートの講評を行う。

【成績評価方法・基準】

各回の報告・質問等(70%)、レポート(30%)。

【履修上の注意】

前期の日本経済史Aを受講済であることが望ましい。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	西洋経済史A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	花田洋一郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

西洋経済史は、経済学と歴史学を両親に持つ学問である。従って、この両分野に関する大学院レベルの基礎知識習得と歴史を経済学の視点から分析する方法を身につけることを目標とする。この授業では「資本主義発展の歴史的プロセスの研究」をテーマとする。

【講義概要】

講義では、最初に日本語で読める標準的テキストを用いて西洋経済史の基礎を勉強する。講義は受講者が作成したレジュメに基づいて進める。講義を通じて、レジュメ作成方法、参考文献の利用方法、報告のやり方など基本的技術を学びなおす。テキストは以下の授業計画にある通り、資本主義の成立の歴史的プロセスを研究史をたどりながら総合的に叙述した研究を使用する。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス：授業の方針説明と到達目標の確認。レジュメの作成指導。
2	テキスト講読開始：第1章「資本主義とは何か」第1節　論議の付きまとう概念
3	第1章「資本主義とは何か」 第2節　3つの古典ーマルクス、ウェーバー、シュンペーターー
4	第1章「資本主義とは何か」 第3節　他の諸見解と作業のための定義
5	第2章「商人資本主義」 第1節　端緒　第2節　中国とアラビア
6	第2章「商人資本主義」 第3節　ヨーロッパ―ダイナミックな遅参者―
7	第2章「商人資本主義」 第4節　1500年頃の時代についての中間的報告
8	第3章「拡大」第1節　ビジネスと暴力―植民地支配と世界交易―
9	第3章「拡大」第2節　株式会社と金融資本主義
10	第3章「拡大」第3節　プランテーション経済と奴隷制
11	第3章「拡大」第4節　農業資本主義・鉱業・プロト工業化
12	第3章「拡大」第5節　資本主義・文化・啓蒙主義―時代の文脈におけるアダム・スミスー
13	第4章「資本主義の時代」第1節　工業化とグローバル化―1800年以降の時代のアウトラインー
14	第4章「資本主義の時代」第2節　オーナー資本主義から経営資本主義へ　第3節　金融化
15	第4章「資本主義の時代」第4節　資本主義における労働　第5節　市場と国家

【テキスト】

ユルゲン・コッカ（山井敏章訳）『資本主義の歴史　起源・拡大・現在』人文書院、2018年。

【参考書・参考資料等】

西洋経済史関係の歴史書に目を通しておくことが望ましい。例えば、河崎・奥編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年；小野塚知二『経済史』有斐閣、2018年。

【事前・事後学習、時間等】

レジュメ作成と専門用語の説明はしっかりやっておくこと（3時間程度）。またテキスト各章について関連する書籍に目を通すことも必要である。報告用に作成されたレジュメについては、講義中に誤字脱字などを修正する。講義終了後に修正しておくこと（1時間程度）。

【課題の種類・内容】

講義で毎回作成するレジュメがこれにあたる。テキストの該当箇所を的確に整理し報告するための原稿を作成する。

【課題に対するフィードバックの方法】

レジュメの内容の適否、文章内容のチェックを行い、適宜加筆・修正を行う。

【成績評価方法・基準】

成績の評価方法として期末試験は行わない。講義における学業への取り組みを重視する。成績評価には出席も重視するが、基本的には、毎回作成するレジュメの水準で判断する。その際の評価基準は、誤字脱字、段落などの形式面30点、文章の論理性30点、用語説明や補足資料添付などの課題への取り組みの意欲40点、計100点である。

【履修上の注意】

講義は出席重視であり、講義を行う場所は学術研究所の研究室とする。参考文献・史料など勉強に便利な環境であるためである。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	西洋経済史B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	花田洋一郎			

【講義の到達目標及びテーマ】

西洋経済史は、経済学と歴史学を両親に持つ学問である。従って、この両分野に関する大学院レベルの基礎知識習得と歴史を経済学の視点から分析する方法を身につけることを目標とする。前期で養った能力を、後期ではさらに高めることを目指す。この授業では「経済成長に関する歴史的考察」をテーマとする。

【講義概要】

講義では定評のあるテキストを用いて西洋経済史の基礎を勉強する。テキストは著名な経済史家・環境史家であるジョーンズの研究を使用し、世界史の観点から経済成長あるいは資本主義発展の歴史を学ぶ。場所は学術研究所内の研究室とする。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス：授業の方針説明と到達目標の確認
2	テキスト講読開始：第1章　ひとりよがりの産業革命解釈
3	第2章　経済成長の始点
4	第3章　古代における成長の兆し
5	第4章　宋代中国の事例
6	第5章　神の碾臼
7	第6章　征服
8	第7章　派生的影響
9	第8章　惰眠する国家
10	第9章　日本（1）
11	第9章　日本（2）
12	第10章　ヨーロッパ（1）
13	第10章　ヨーロッパ（2）
14	第11章　要約と結論
15	テキストのまとめ

【テキスト】

E.L.ジョーンズ（天野・重富他訳）『経済成長の世界史』（名古屋大学出版会、2007年）

【参考書・参考資料等】

同一著者による姉妹編である。E.L.ジョーンズ（安元・脇村訳）『ヨーロッパの奇跡―環境・経済・地政の比較史―』（名古屋大学出版会、2000年）

【事前・事後学習、時間等】

レジュメの作成と専門用語の説明はしっかりやっておくこと。またレジュメの修正も行うこと（総計3時間程度）。

【課題の種類・内容】

課題は毎回作成するレジュメ、そして用語や歴史背景の調査がそれにあたる。テキストの内容を的確にまとめること。

【課題に対するフィードバックの方法】

レジュメの作成方法や文章の整理の仕方については、毎回指導を行う。そして加筆・修正を行う。

【成績評価方法・基準】

成績評価の方法として試験は行わない。講義における課題への取り組みを重視する。成績評価では出席も重視するが、基本的には毎回作成するレジュメの水準で判断する。その際の評価基準は、誤字脱字、段落などの文章作成上の形式面30点、文章の論理性30点、用語説明や補足資料添付などの課題への取り組みの意欲40点、計100点である。

【履修上の注意】

講義は出席重視。場所は学術研究所内の研究室とする。それは関係史料の使用という点で研究室が便利であるからである。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	労働経済学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	伊佐勝秀			

【講義の到達目標及びテーマ】

修士論文等の執筆に必要な、労働経済学の標準的な概念やツールを習得してもらう。

【講義概要】

英語圏で版を重ねている、新古典派労働経済学の立場に立つ下記のテキストの最新版を元に講義を行う。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	Labor Economics: Introduction and Overview
2	The Theory of Individual Labor Supply
3	Population, Participation Rates, and Hours of Work
4	Labor Quality: Investing in Human Capital
5	The Demand for Labor
6	Wage Determination and the Allocation of Labor
7	Alternative Pay Schemes and Labor Efficiency
8	The Wage Structure
9	Mobility, Migration, and Efficiency
10	Labor Unions and Collective Bargaining
11	Government and the Labor Market
12	Labor Market Discrimination
13	The Distribution of Personal Earnings
14	Labor Productivity: Wages, Prices, and Employment
15	Employment and Unemployment

【テキスト】

C. R. McConnell, S. L. Brue, and D.A. Macpherson *Contemporary Labor Economics (11th Edition)*, McGraw-Hill, 2016

【参考書・参考資料等】

George Borjas *Labor Economics (8th Edition)*, McGraw-Hill, 2019

【事前・事後学習、時間等】

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学及び計量経済学の基礎を復習しておくこと。

【課題の種類・内容】

必要に応じて練習問題を課す。テキストは主にアメリカの事例を基づき執筆されているが、日本の労働問題への適用可能性も常に念頭においてほしい。

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

出席、レポート及び期末試験。

【履修上の注意】

毎回出席すること。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	環境経済学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	小出　秀雄			

【講義の到達目標及びテーマ】

環境経済学の分野を網羅した文献を精読することによって、環境経済学・環境政策学の基本的な考え方と分析手法を学修する。この学修を起点として、世間で話題となっている環境問題および環境政策の多くを理解し、さらに経済のしくみをよりよく学ぶことができる。この講義は、福岡環境学際フォーラム<http://fukuokagakusai.com/>と連携している。

【講義概要】

環境経済学の考え方と手法を丁寧に解説した栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』をテキストとし、受講生主導による講義と議論を行う。全員が該当箇所を読んでいることを前提に、まずその回に講義を担当する受講生が内容を概説してから、担当教員を交えて質疑応答を活発に行う。そして、現行の政策をどう評価すべきか、あるいはどう変えるべきかを議論する。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス、役割分担の確認
2	〔序〕環境問題と経済学
3	〔第1章〕私たちの生活と環境(1)経済発展、ごみ問題
4	〔第1章〕私たちの生活と環境(2)地球温暖化問題
5	〔第2章〕環境問題発生のメカニズム(1)外部性、共有資源
6	〔第2章〕環境問題発生のメカニズム(2)公共財、フリーライダー
7	〔第3章〕環境政策の基本理論(1)直接規制、税・補助金
8	〔第3章〕環境政策の基本理論(2)直接交渉、排出量取引
9	〔第4章〕環境政策への応用(1)政策手段の選択、廃棄物政策
10	〔第4章〕環境政策への応用(2)パリ協定、地球温暖化対策
11	〔第5章〕環境の価値評価(1)環境の価値、顕示選好法
12	〔第5章〕環境の価値評価(2)表明選好法、費用便益分析
13	〔第6章〕企業と環境問題(1)企業の環境対策、社会的責任
14	〔第6章〕企業と環境問題(2)環境リスク、生物多様性と生態系
15	個人研究発表、講義内容のまとめ

【テキスト】

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』(有斐閣、第4版、2020年)

【参考書・参考資料等】

参考書は、適宜指示する。テキストの内容に関連する資料を、その都度配布する。講義中は、環境の実態と政策を知るネット情報として、国の環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>、福岡市の環境<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/>などをたびたび利用する。

【事前・事後学習、時間等】

精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、参考文献等にあたって解決を図ること(1.5時間程度)。また、講義中に理解が十分でなかった点、あるいはさらに探究すべき課題が与えられた場合は、次回の講義あるいは設定された期日までに、必ずそれらに取り組んでおくこと(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

個別テーマに関するリポート、他大学や福岡環境学際フォーラム研究会での発表など

【課題に対するフィードバックの方法】

面前での指導、添削など

【成績評価方法・基準】

精読の内容の理解度、解説および質疑応答時の内容、議論への積極的な参加の姿勢等を総合的に考慮し、評価を行う(60点)。また、時折与える研究課題(リポート、発表など)の成果も、評価の対象である(40点)。

【履修上の注意】

講義への皆勤に加えて、小出が運営に関わる福岡環境学際フォーラムの研究会や地域実践活動にも極力参加すること。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	環境経済学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	小出　秀雄			

【講義の到達目標及びテーマ】

循環型社会の形成に向けた到達点と政策課題を明らかにした文献を精読することによって、環境経済学・環境政策学の最新トピックを学修する。この分野をきっかけに、環境問題および環境政策の本質を理解し、さらに経済のしくみをよりよく学ぶことができる。この講義は、福岡環境学際フォーラム<http://fukuokagakusai.com/>と連携している。

【講義概要】

循環型社会の形成に関する研究成果を解説した鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』をテキストとし、受講生主導による講義と議論を行う。全員が該当箇所を読んでいることを前提に、まずその回に講義を担当する受講生が内容を概説してから、担当教員を交えて質疑応答を活発に行う。そして、現行の政策をどう評価すべきか、あるいはどう変えるべきかを議論する。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス、役割分担の確認
2	〔序章〕循環型社会形成に向けた廃棄物管理と資源循環
3	〔第1章〕廃棄物政策と法制度(1)法体系
4	〔第1章〕廃棄物政策と法制度(2)EPRとDfE
5	〔第2章〕廃棄物排出抑制の経済政策
6	〔第3章〕適正処理推進のための制度設計(1)不法投棄の現状
7	〔第3章〕適正処理推進のための制度設計(2)不法投棄抑制の経済学
8	〔第4章〕廃棄物処理の費用と便益(1)費用便益分析
9	〔第4章〕廃棄物処理の費用と便益(2)外部費用を考慮した分析
10	〔第5章〕リサイクル制度の有効性と課題(1)EPR再論
11	〔第5章〕リサイクル制度の有効性と課題(2)EPR政策の経済分析
12	〔第6章〕廃棄物の越境移動と国際的な管理(1)制度
13	〔第6章〕廃棄物の越境移動と国際的な管理(2)アジア地域
14	〔第7章〕放射性廃棄物の現状と課題
15	個人研究発表、講義内容のまとめ

【テキスト】

鷲田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』(岩波書店、2015年)

【参考書・参考資料等】

参考書は、適宜指示する。テキストの内容に関連する資料を、その都度配布する。講義中は、環境の実態と政策を知るネット情報として、国の環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>、福岡市の環境<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/>などをたびたび利用する。

【事前・事後学習、時間等】

精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、参考文献等にあたって解決を図ること(1.5時間程度)。また、講義中に理解が十分でなかった点、あるいはさらに探究すべき課題が与えられた場合は、次回の講義あるいは設定された期日までに、必ずそれらに取り組んでおくこと(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

個別テーマに関するリポート、他大学や福岡環境学際フォーラム研究会での発表など

【課題に対するフィードバックの方法】

面前での指導、添削など

【成績評価方法・基準】

精読の内容の理解度、解説および質疑応答時の内容、議論への積極的な参加の姿勢等を総合的に考慮し、評価を行う(60点)。また、時折与える研究課題(リポート、発表など)の成果も、評価の対象である(40点)。

【履修上の注意】

講義への皆勤に加えて、小出が運営に関わる福岡環境学際フォーラムの研究会や地域実践活動にも極力参加すること。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	経済地理学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	山村　英司			

【講義の到達目標及びテーマ】

研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解することと、データを利用した分析をする能力を養成する。このような最低限の能力に加え、これらの知識を駆使して経済地理をテーマにして論文を書くことを目指す。

【講義概要】

定評ある英語テキストの講読および、国際学術雑誌に掲載された近年の論文を読むことにより、経済地理およびその関連分野の知識を身につける。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	講義内容の説明
2	Working Tools
3	Utility and Preferences in Geography
4	Consumption and Dmand in Geography
5	Applications and Estentions of Demand Theory in Geography
6	The Business Firm in Geography
7	Equilibrium in the Product Market: Competitive Industry in Geography
8	Monoplies, Cartles, and Networks in Geography
9	Product Quality and Product Variety in Geography
10	Consumption among the Few: Oligopoly and Strategic Behavior in Geography
11	Dealing with Uncertainty: The Economics of Risk and Information in Geography
12	Demand fro Factor Services in Geography
13	Resourse Supply and Factor-Market Equilibrium in Geography
14	Exchange, Transaction Costs, and Money in Geography
15	Economics of Time in Geography

【テキスト】

Goolsbee, A., Levitt,S., Syverson, C. (2016). Microeconomics (2nd ed).Worth Publ.

【参考書・参考資料等】

American Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。

【事前・事後学習、時間等】

講義で取り扱った知識を完全なものとすること。講義はすでに学習した内容を応用して進めていく。したがって、復習をしていなければ、それ以降の講義についていくことは困難となる。

【課題の種類・内容】

アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に指定した教材の予習範囲を精読する。可能な限りその内容を理解するように努力する。テキストは毎回1chapter進み、さらに学術論文を1本の内容を報告する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義中に報告内容について指導教授よりコメント及び内容確認の詳細な質問がある。

【成績評価方法・基準】

講義における質問への応答（40点）、報告における学問的な正確性（30点）、宿題の達成度（30点）の配点で評価する。

【履修上の注意】

ミクロ経済学および計量経済学の知識が身についているという前提で講義を行う。最低限の知識として経済学においてElasticity(弾力性)が何を意味するのか、なぜこの概念が必要になるのかなどを熟知していることがあげられる。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	経済地理学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	山村　英司			

【講義の到達目標及びテーマ】

研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解することと、データを利用した分析をする能力を養成する。このような最低限の能力に加え、これらの知識を駆使して経済地理をテーマにして論文を書くことを目指す。

【講義概要】

定評ある英語テキストの講読および、国際学術雑誌に掲載された近年の論文を読むことにより、経済地理およびその関連分野の知識を身につける。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	講義内容の説明
2	Market structure and geography 1: agglomeration
3	Market structure and geography 2: distance
4	Market structure and geography 3: scale economy
5	Markt structure and geography 4: Space
6	Political economy and disaster 1: Growth
7	Political economy and disaster 2: risk
8	Political economy and disaster 3: Hanshin-awaji
9	Political economy and disaster 4: Fertility
10	Political economy and disaster 5: corruption
11	Economic background and geography 1: colony
12	Economic background and geography 2: africa
13	Economic background and geography 3: South america
14	Economic background and geography 4: Asia
15	全体のまとめ

【テキスト】

Goolsbee, A., Levitt,S., Syverson, C. (2016). Microeconomics (2nd ed).Worth Publ.

【参考書・参考資料等】

American Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。

【事前・事後学習、時間等】

講義で取り扱った知識を完全なものとすること。講義はすでに学習した内容を応用して進めていく。したがって、復習をしていなければ、それ以降の講義についていくことは困難となる。

【課題の種類・内容】

アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に指定した教材の予習範囲を精読する。可能な限りその内容を理解するように努力する。テキストは毎回1chapter進み、さらに学術論文を1本の内容を報告する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、講義中に報告内容について指導教授よりコメント及び内容確認の詳細な質問がある。

【成績評価方法・基準】

講義における質問への応答（40点）、報告における学問的な正確性（30点）、宿題の達成度（30点）の配点で評価する。

【履修上の注意】

ミクロ経済学および計量経済学の知識が身についているという前提で講義を行う。最低限の知識として経済学においてElasticity(弾力性)が何を意味するのか、なぜこの概念が必要になるのかなどを熟知していることがあげられる。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	世界経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	尹春志			

【講義の到達目標及びテーマ】

現代世界経済の構造と動態を理解するうえで必要な見方について理解することを目的とする。

【講義概要】

下記のテキストの各章に則して、世界経済を理解するために必要な貿易、経済発展、通貨・金融の基礎知識を復習しつつ、現実を踏まえて、通説的理解とは異なる世界経済の見方について考えるという形で講義し、討論を行う。授業参加者には、分担してテキストの内容を要約した報告を行ってもらう。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	イントロダクション：講義の進め方と概要説明
2	イギリス中心の世界経済の構造
3	第二次世界大戦後の世界経済
4	国際貿易と国際通貨の基礎理論
5	第二世界大戦後の国際通貨システム
6	国際貿易システムの形成・展開・変貌
7	途上国における開発戦略と開発経済学の変遷
8	対外投資と生産のグローバル化
9	戦後アメリカ経済の展開
10	EU経済・通貨統合の現実
11	アジアNIESとASEAN経済
12	グローバリゼーション下の新興国・途上国経済
13	現代中国経済と人民元の国際化
14	21世紀の世界経済
15	まとめ

【テキスト】

山本和人・鳥谷一生編著『世界経済論』ミネルヴァ書房、2019年。

【参考書・参考資料等】

授業中に随時支持します。

【事前・事後学習、時間等】

「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)。毎回の講義の初前回の講義内容について議論するので、復習して授業に臨むこと(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

課題に関する報告や講義中の質疑・応答・議論の内容をもって評価します。事前にテキストを読み込み内容を適切に要約できているかどうか、またテキストの内容をクリティカルに読み込み具体的な問題意識をもって討論に参加しているかどうかを重視します。

【履修上の注意】

出席は必須ですので、事情により欠席する場合は、特別な場合を除き事前に連絡するようにしてください。質問には随時、受けとけます。事前にメールで予約してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	世界経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	尹春志			

【講義の到達目標及びテーマ】

現代世界経済の構造と動態を理解するうえで必要な見方について理解することを目的とする。

【講義概要】

世界経済を理解する一つの分析視角であるグローバル・バリューチェーン・アプローチを下記のテキストをベースにして学ぶ。その際、テキストの記述をそのまま理解するのではなく、その批判的検討を通じて、このアプローチが持つ多様な議論についても学ぶ。授業参加者には、分担してテキストの内容を要約した報告を行ってもらう。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	イントロダクション：講義の進め方とテキストの概要説明
2	グロバール・バリューチェーンとは何か
3	NID論と工程間国際分業論
4	東アジアの地域的経済構造
5	米中摩擦
6	グローバル・バリューチェーンから見た米中摩擦
7	付加価値貿易と世界経済
8	付加価値貿易の計測方法
9	グ―バル・バリューチェーンの指標
10	グローバル・バリューチェーンの類型
11	技術革新と経済発展
12	新しい南北問題
13	政策提言
14	第四次産業革命とグローバル・バリューチェーン
15	まとめの討論

【テキスト】

各項目に則した論文などの資料を配布もしくは指示する予定ですが、適当なテキストがあれば、それを参照するにともあります。

【参考書・参考資料等】

授業中に随時支持します。

【事前・事後学習、時間等】

「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)。毎回の講義の初前回の講義内容について議論するので、復習して授業に臨むこと(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

課題に関する報告や講義中の質疑・応答・議論の内容をもって評価します。事前にテキストを読み込み内容を適切に要約できているかどうか、またテキストの内容をクリティカルに読み込み具体的な問題意識をもって討論に参加しているかどうかを重視します。

【履修上の注意】

出席は必須ですので、事情により欠席する場合は、特別な場合を除き事前に連絡するようにしてください。質問には随時、受けとけます。事前にメールで予約してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	国際経済政策A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	本間　正義			

【講義の到達目標及びテーマ】

国際経済政策の形成過程を、農業政策を例にして授業を行う。ミクロ経済学と政治経済学の観点から分析する能力を養うことを目標とする。

【講義概要】

指定されたテキストを、受講生が順次講義・解説し、それに対し教員を含む全員で議論する。テキストのタイトルに「日本農業」とあるが、本書は日本だけでなく世界の農業と農業政策を扱う。また、テキストだけではなく、関連する参考文献にも目を通し、理解を深める。ミクロ経済学の基礎知識は最低限の履修条件である。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	農業問題と農業政策を見る視点
2	日本および世界の農業の特質
3	ミクロ経済学と農業政策の理論
4	比較優位と貿易の理論
5	レントシーキングと政策決定の政治経済学
6	農業政策の変遷1：農地制度
7	農業政策の変遷2：コメ政策
8	農業政策の変遷3：農協問題
9	農業政策の国際化対応
10	WTOおよびFTAと農業問題
11	日本・韓国・台湾の経済発展と農業
12	国際農産物市場の新展開
13	農業技術の新展開と新たな貿易問題
14	アベノミクスと日本農業の総合戦略
15	まとめの討論

【テキスト】

本間正義『現代日本農業の政策過程』(慶應義塾大学出版会、2010年)

【参考書・参考資料等】

Anderson, K. (ed.), The Political Economy of Agricultural Distortions, (Cambridge U. P., 2010), 他

【事前・事後学習、時間等】

「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること(1.5時間程度)。また、授業の後で同様の時間をかけて復習すること。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

授業での報告内容、レジメ等の準備、授業内での発言やコメントなどを総合的に評価する。

【履修上の注意】

受講生はミクロ経済学の知識を習得しているものとして授業を行う。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	国際経済政策B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	本間　正義			

【講義の到達目標及びテーマ】

国際経済政策の形成過程と国際協調のありかたを学ぶ。具体的な国際問題をとりあげながら政治経済学的に考察できるようになることを目標とする。

【講義概要】

指定された英語のテキストの内容を、受講生が順次報告・解説し、それに対し教員を含む全員で議論する。テキストは食料の安全保障と希少性に関するものであるが、世界の飢餓問題にどのような取り組みが可能であり、どれが有効かを議論する。そのために市場と政策がどのように連携すべきかを学ぶ。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	授業についてのガイダンス、進め方の説明
2	Setting the Stage: Food Scarcity and Food Price
3	World Grain Prices: Level and Volatility
4	Learning to Manage Food Security: A Policy Perspective
5	The Macro Dimension of Food Security
6	The Micro Dimension of Food Security
7	Understanding Food Security Dynamics: Models and Numbers
8	Structural Transformation as the Pathway to Food Security
9	Agricultural Transformation
10	When Pro-poor Growth and Structural Transformation Fail
11	Reducing Poverty and Hunger in Africa and South Asia
12	The Political Economy of Food Security
13	Why is Good Economists Often Bad Politics?
14	The Way Foreword: The Time Horizon Matters
15	Conclusion

【テキスト】

Timmer, P., Food Security and Scarcity (University of Penn Press, 2015)

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜紹介する

【事前・事後学習、時間等】

「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること(2時間程度)。また、授業の後で同様の時間をかけて復習すること。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

授業での報告内容、レジメ等の準備、授業内での発言やコメントなどを総合的に評価する。

【履修上の注意】

受講生はミクロ経済学の知識を習得しているものとして授業を行う。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	アメリカ経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	立石　剛			

【講義の到達目標及びテーマ】

本講義ではアメリカ経済に関する幅広い分析を通じて今後どのような経済問題が研究課題としてクローズアップされるかを考えます。この作業を通じて、就職活動を行う学生にとっては職業選択の大まかな指針を、研究を続ける学生にとっては対象とする研究分野の選択を行うことが目標です。

【講義概要】

トランプ政権の誕生により「アメリカ経済の内向化」が指摘されています。本講義では、アメリカ経済を、財政システム、金融システム、技術革新、社会福祉、所得格差、エネルギー資源、国際貿易、国際金融通貨など多面的に分析することで、トランプ政権の経済政策の背景にあるアメリカ経済の動向を検証します。アメリカ経済論Aではアメリカ経済で生じている主要経済問題、アメリカ経済の基本構造、第二次世界大戦後から1970年代までのアメリカ経済の変遷およびに焦点をあてます、この過程で今後どのような経済問題が研究課題として重要になるか長期的視点で考えます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	はじめに—講義内容と進め方—
2	問題提起　アメリカ経済で起こっていること
3	基本構造:アメリカ産業の基本構造
4	基本構造:金融システムの基本構造
5	基本構造:企業システムの基本構造
6	基本構造:労使関係と国民生活の基本構造
7	基本構造:経済政策の基本構造
8	基本構造:IMF・GATT体制の基本構造
9	アメリカ経済の動揺:冷戦体制と資本主義経済の成長
10	アメリカ経済の動揺:IMF・GATT体制の動揺と変質
11	アメリカ経済の動揺:ドル本位制とアメリカ経済
12	アメリカ経済の動揺:アメリカ製造業の相対的衰退
13	アメリカ経済の動揺:スタグフレーション下の金融システム
14	前期のまとめ
15	前期内容に関する個人研究発表

【テキスト】

特定のテキストは利用しませんので、適宜主要文献を紹介します。

【参考書・参考資料等】

講義内容に関連して、適宜紹介します。

【事前・事後学習、時間等】

各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくと良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。事前・事後学習の時間はそれぞれ1時間程度行ってください。

【課題の種類・内容】

前期講義で学習した内容のうち、最も関心を持ったテーマに関して、レポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては他の受講者とともに発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。

【成績評価方法・基準】

授業への取り組み(報告(20%)・レポート提出(20%)・プレゼンテーション(20%)・受講態度(20%)・出席状況(20%))を総合的に評価して判断します。

【履修上の注意】

経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	アメリカ経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	立石　剛			

【講義の到達目標及びテーマ】

本講義ではアメリカ経済に関する幅広い分析を通じて今後どのような経済問題が研究課題としてクローズアップされるかを考えます。この作業を通じて、就職活動を行う学生にとっては職業選択の大まかな指針を、研究を続ける学生にとっては対象とする研究分野の選択を行うことが目標です。

【講義概要】

トランプ政権の誕生により「アメリカ経済の内向化」が指摘されています。本講義では、アメリカ経済を、財政システム、金融システム、技術革新、社会福祉、所得格差、エネルギー資源、国際貿易、国際金融通貨など多面的に分析することで、トランプ政権の経済政策の背景にあるアメリカ経済の動向を検証します。アメリカ経済論Bでは1980年代以降のアメリカ経済の再編過程と世界経済との関連性、金融危機の発生とオバマ・トランプ政権の経済政策、そして米中経済摩擦に焦点をあてます。この過程で今後どのような経済問題が研究課題として重要になるか長期的視点で考えます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	はじめに—講義内容と進め方—
2	アメリカ経済の再編：金融自由化と金融システムの変容
3	アメリカ経済の再編：政府機能の転換—市場原理と規制緩和—
4	アメリカ経済の再編：株主価値とコーポレート・ガバナンスの変化
5	アメリカ経済の再編：伝統的労使関係の衰退
6	アメリカ経済のグローバル化：貿易投資システムの自由化と「新しい」国際分業
7	アメリカ経済のグローバル化：世界的金融・資本自由化とアメリカの対外債務
8	アメリカ経済のグローバル化：アメリカの金融活況と世界経済
9	金融危機と脱グローバル化：金融危機とアメリカ経済の長期停滞
10	金融危機と脱グローバル化：デジタル経済化と産業構造の変化
11	金融危機と脱グローバル化：経済格差の拡大とオバマ政権の経済政策
12	金融危機と脱グローバル化：トランプ政権と米中経済摩擦
13	後期のまとめ
14	後期内容に関する個人研究発表
15	後期内容に関する個人研究発表

【テキスト】

特定のテキストは利用しませんので、適宜主要文献を紹介します。

【参考書・参考資料等】

講義内容に関連して、適宜紹介します。

【事前・事後学習、時間等】

各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくと良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。事前・事後学習の時間はそれぞれ1時間程度行ってください。

【課題の種類・内容】

前期講義で学習した内容のうち、最も関心を持ったテーマに関して、レポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては他の受講者とともに発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。

【成績評価方法・基準】

授業への取り組み（報告（20%）・レポート提出（20%）・プレゼンテーション（20%）・受講態度（20%）・出席状況（20%））を総合的に評価して判断します。

【履修上の注意】

経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	世界経済論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	立石　剛			

【講義の到達目標及びテーマ】

本演習では、アメリカ経済の基本構造の理解を到達目標とする。具体的には、(1)アメリカ経済の基本構造を多面的に説明することができる、(2)1930年代以降のアメリカ経済の変化を歴史区分に沿って説明することができる、そして(3)以上を世界経済におけるアメリカ経済の役割と関連付けて説明できること、を到達目標とします。

【講義概要】

上記の到達目標を達成するために、(1)アメリカ経済の基本的な構造についてマクロ経済構造、産業構造、金融システム、企業システム、労使関係、国民生活、政府政策、そして国際経済関係等多面的に文献を渉猟し、(2)アメリカ経済の分析に必要なデータの収集及び分析方法について実習し、(3)講義に関する課題に取り組み、発表してもらいます。

【講義計画内容】

No.	講義計画	No.	講義計画
1	はじめに—講義内容と進め方—	16	企業活動のグローバル化：オフショアリング・GVC
2	金融危機後の経済システム：市場原理のアメリカか権威主義の中国か	17	シェールガスの世界政治への影響
3	市場経済システムと国家管理型経済システム：大恐慌とニューディールの経験から	18	ビッグデータと国際的データ管理構造
4	経済成長の源泉は何か：政治体制、地勢、資源、人口、技術	19	ブロックチェーンと国際貿易の未来
5	人口構造の変化と低経済成長	20	人工知能とデジタル権威主義：民主主義は生き残れるのか？
6	人工知能と雇用	21	国際通貨の興亡の歴史：ドル体制とデジタル人民元
7	オートメーション時代のと社会保障	22	金融政策転換の国際的影響：連邦準備制度による金利引き上げは何をもたらすか
8	格差拡大の政治的要因：政治的影響力を増す富裕層と失う労働組合	23	金融危機の忘れられた歴史：そしていかに米欧のきずなは失われたか
9	格差拡大の心理学的影響：行動経済学による「忘れられた人々」の心理分析	24	トランプの貿易政策は何を引きおこすか：アメリカ経済の孤立化
10	格差拡大の政治経済的帰結：アメリカにおけるポピュリズムの歴史	25	トランプ政権と国際経済秩序の未来：ブレトンウッズ体制はどこに向かうのか
11	政府は格差にどう対処していくべきか：アフターピケティ	26	次なるサイバー大国：中国の制造2025とアメリカ
12	大不況と金融政策：連邦準備制度はバブルと金融危機にどのように対処したか	27	米中貿易戦争の安全保障リスク：対立は中国をどこへ向かわせるか
13	「緊縮財政」という思想：不十分な財政支出の背後にあるもの	28	大恐慌への回帰か：恐慌型経済と世界大恐慌の経験
14	金融危機後の長期景気停滞をどう診るか	29	1930年代の世界経済の分断と世界大恐慌
15	前期のまとめ	30	まとめ

【テキスト】

Council on Foreign Relations(アメリカ外交問題評議会)が発行している雑誌Foreign Affairsに掲載されている論文を中心に、関連書籍および関連論文をテキストとして利用します。論文は日本語訳されているものを利用しますが、受講生が希望すれば原文(英語)を利用することもあります。

【参考書・参考資料等】

各回の講義時に参考書及び参考資料を提示します。

【事前・事後学習、時間等】

各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくと良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。

【課題の種類・内容】

講義内容に関連した課題を出しますので、それについてレポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。

【成績評価方法・基準】

授業への取り組み(報告(20%)・レポート提出(20%)・プレゼンテーション(20%)・受講態度(20%)・出席状況(20%))を総合的に評価して判断します。

【履修上の注意】

経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	東南アジア経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	東　茂樹			

【講義の到達目標及びテーマ】

東南アジア経済について、工業化の特色、農村の変化、政府の役割、グローバル化の影響、経済危機への対応などを解説する。これまでの東南アジア経済に関する議論を検討した上で、国別およびテーマ別に事例を取り上げて現状を分析し、特徴や問題点を考えていく。講義を通して、東南アジア経済の現状や問題点について理解を深めるとともに、東南アジアを対象に経済学の視点から分析する思考能力を養う。

【講義概要】

東南アジアの経済開発および通貨危機に関する先行研究を精読して、それぞれの特徴と問題点を把握する。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	東南アジア経済の概要
2	東南アジアの農業
3	東南アジアの農村
4	東南アジアの経済・社会開発
5	東南アジアの工業化
6	東南アジアの金融
7	東南アジアの貿易
8	東南アジアの直接投資
9	東南アジアの地域統合
10	アジア通貨危機の概要
11	アジア通貨危機後のマクロ経済
12	アジア通貨危機後の金融改革
13	アジア通貨危機後の企業改革
14	アジア通貨危機後のセーフティネット整備
15	アジア通貨危機後の地域協力

【テキスト】

東茂樹編『FTAの政治経済学：アジア・ラテンアメリカ7カ国のFTA交渉』アジア経済研究所、2007年, 西澤信善・北原淳編『東アジア経済の変容：通貨危機後10年の回顧』晃洋書房、2009年など。

【参考書・参考資料等】

Jonathan Rigg ed. Southeast Asian Development Volume 3, Routelege, 2008など

【事前・事後学習、時間等】

テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(1.5時間程度)。毎回の講義の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

講義への事前準備、講義での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。

【履修上の注意】

特になし

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	東南アジア経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	東　茂樹			

【講義の到達目標及びテーマ】

東南アジア経済について、工業化の特色、農村の変化、政府の役割、グローバル化の影響、経済危機への対応などを解説する。これまでの東南アジア経済に関する議論を検討した上で、国別およびテーマ別に事例を取り上げて現状を分析し、特徴や問題点を考えていく。講義を通して、東南アジア経済の現状や問題点について理解を深めるとともに、東南アジアを対象に経済学の視点から分析する思考能力を養う。

【講義概要】

東南アジア諸国が直面している最近の経済的な課題に関して、地域経済統合と通貨危機後の産業再編を取り上げ分析する思考力を養う。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ASEANのFTA戦略
2	タイのFTA戦略
3	フィリピンのFTA戦略
4	マレーシアのFTA戦略
5	インドネシアのFTA戦略
6	アジア通貨危機の産業再編
7	自動車産業の事例
8	流通業の事例
9	情報通信産業の事例
10	食品・飲料産業の事例
11	セメント産業の事例
12	石油化学産業の事例
13	鉄鋼業の事例
14	アジア域内貿易の分析
15	アジア域内投資の分析

【テキスト】

東茂樹編『FTAの政治経済学：アジア・ラテンアメリカ7カ国のFTA交渉』アジア経済研究所、2007年, 西澤信善・北原淳編『東アジア経済の変容：通貨危機後10年の回顧』晃洋書房、2009年など。

【参考書・参考資料等】

Jonathan Rigg ed. Southeast Asian Development Volume 3, Routelege, 2008など

【事前・事後学習、時間等】

テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(1.5時間程度)。毎回の講義の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(1.5時間程度)。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

講義への事前準備、講義での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。

【履修上の注意】

特になし

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	資源経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	河村　朗			

【講義の到達目標及びテーマ】

本講義は中東諸国のエネルギー資源経済、特に、ペルシャ湾岸産油国（以下、湾岸産油国）における石油・天然ガス上流部門、原子力、再生可能エネルギーなどの動向を中心テーマとして研究し、その歴史および現状を理解し、今後を展望することを目標とする。

【講義概要】

本講義では、中東地域、特にペルシャ湾岸産油国（湾岸産油国）における石油、天然ガス、原子力、再生エネルギーのようなエネルギー資源動向を学ぶ。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	イントロダクション
2	世界におけるエネルギー資源経済の概観(1)：歴史
3	世界におけるエネルギー資源経済の概観(2)：現状
4	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(1)：石油メジャー
5	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(2)：OPECと石油危機
6	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(3)：1980年代以降
7	湾岸産油国における天然ガス上流部門の概観(1)：歴史
8	湾岸産油国における天然ガス上流部門の概観(2)：現状
9	湾岸産油国における石油・天然ガスの貿易
10	湾岸産油国における経済開発と石油・天然ガス(1)：電力
11	湾岸産油国における経済開発と石油・天然ガス(2)：海水淡水化
12	湾岸産油国における経済開発と石油・天然ガス(3)：石油化学工業
13	湾岸産油国における天然ガス不足とその背景
14	湾岸産油国における経済開発と原子力・再生可能エネルギー
15	今後の課題と展望

【テキスト】

毎回講義ノートを配布する予定である。

【参考書・参考資料等】

特になし。

【事前・事後学習、時間等】

講義形式で授業を進めていくが、適宜参考文献を指示するので授業までに読んでおくこと。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

平常点、発表、レポートによって評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。
平常点：20%、発表：40%、レポート：40%

【履修上の注意】

無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	資源経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	河村　朗			

【講義の到達目標及びテーマ】

本講義は中東諸国のエネルギー資源経済、特に、ペルシャ湾岸産油国（以下、湾岸産油国）における各国ごとの石油・天然ガス上流部門の動向を中心に研究し、またその歴史および現状を理解した後、今後を展望することを目標とする。

【講義概要】

本講義では、中東諸国、特に　湾岸産油国に焦点を当てて、イラン、イラク、クウェート、サウジアラビア、バーレーン、カタル、UAE、オマーンの8カ国における石油、天然ガスのエネルギー動向を学ぶ。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	イントロダクション
2	イランの石油動向
3	イランの天然ガス動向
4	イラクの石油・天然ガス動向
5	クウェートの石油動向
6	クウェートの天然ガス動向
7	サウジアラビアの石油動向
8	サウジアラビアの天然ガス動向
9	カタルの石油動向
10	カタルの天然ガス動向
11	UAEの石油動向
12	UAEの天然ガス動向
13	オマーンの石油・天然ガス動向
14	バーレーンの石油・天然ガス動向
15	課題と今後の展望

【テキスト】

毎回講義ノートを配布する予定である。

【参考書・参考資料等】

Bassam Fattouh and Jonathan P.Stern,eds., 2011, *Natural Gas Markets in the Middle East and North Africa*, Oxford University Press.

【事前・事後学習、時間等】

講義形式で授業を進めていくが、適宜参考文献を指示するので授業までに読んでおくこと。

【課題の種類・内容】

【課題に対するフィードバックの方法】

【成績評価方法・基準】

平常点、発表、レポートによる評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。
平常点：20%、発表：40%、レポート：40%

【履修上の注意】

無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	統計学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	中馬正博			

【講義の到達目標及びテーマ】
理論研究に終始するのでなければ，何らかのデータ収集，分析を行うことになるが，データの取り扱い，その解釈に当たっては，統計学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。本講義では，標準的なテキストを利用して，大学で学ぶ統計学の基本事項を整理し，データに基づく様々な判断を行う上で役立つ基礎知識を修得することを目指します。

【講義概要】
初心者を対象に統計学の基礎的な考え方を解説し，統計学の標準的知識を確認することを目的とします。本講義では，記述統計学の基礎的内容と相関・回帰分析に関する基礎知識を整理します。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	統計データと統計手法
2	度数分布表とヒストグラム
3	中心の尺度（平均，中位数，最頻値）
4	散らばりの尺度（範囲，分散，標準偏差，四分位偏差）
5	単純平均と加重平均，算術平均，幾何平均，調和平均
6	歪み，平均差，不平等尺度
7	回帰分析（単回帰）
8	回帰分析の計算（最小二乗法）
9	決定係数と相関係数
10	回帰分析（重回帰）
11	相関関係と因果関係
12	偏相関係数
13	順位相関係数
14	時系列データと自己相関係数
15	経済指標の紹介

【テキスト】
東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版会，2011年

【参考書・参考資料等】
熊原啓作・渡辺美智子『身近な統計』放送大学教育振興会，2012年

【事前・事後学習、時間等】
教科書本文の解説を予習し，事前に講義で取り上げる内容に関するイメージを予め作った上で，講義に出席してください。
1時間半程度。
事後学修として，教科書各章末にある練習問題に取り組み，解答作成を試みてください。1時間半程度。

【課題の種類・内容】
授業出席者に必要に応じて，EXCELによる実習課題を送付します。

【課題に対するフィードバックの方法】
本講義の最終評価は，次のような基準で評価します。①講義への積極的出席態度40%，②講義ノートの整理状況30%，③課題提出30%

【成績評価方法・基準】
講義内容に関する質問は、次のアドレスで常時受け付けます。実習課題は提出期限内にメールに添付して次のアドレスまで送付してください。提出された実習課題は添削した上で返却します。masahiro@seinan-gu.ac

【履修上の注意】
後期に提供される統計学Bを合わせて履修することが望ましい。テキストで示されている計算数値を，関数電卓と表計算ソフトを利用して自分でも計算して確認するよう努めてください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	統計学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	中馬正博			

【講義の到達目標及びテーマ】

理論研究に終始するのでなければ，何らかのデータ収集，分析を行うことになるが，データの取り扱い，その解釈に当たっては，統計学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。本講義では，標準的なテキストを利用して，大学で学ぶ統計学の基本事項を整理し、データに基づく様々な判断を行う上で，統計学がどのように活用されているかを説明します。

【講義概要】

初心者を対象に統計学の基礎的な考え方を解説し，統計学の基礎的知識を確認することを目的とします。本講義では，離散型，連続型の代表的な確率分布を紹介した上で，正規分布に基づく推定論，検定論に関する話題を取り上げて講義を進めます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	標本空間と事象
2	確率の公理
3	排反性と加法定理
4	独立性と乗法定理
5	確率変数と確率分布
6	積率と積率母関数
7	チェビシェフの不等式
8	超幾何分布と二項分布
9	二項分布と正規分布
10	ポアソン分布、幾何分布、負の二項分布
11	母集団と標本
12	点推定と区間推定
13	点推定の基準(不偏性，最良性，一致性)
14	正規母集団に関する仮説検定(カイ二乗検定、t検定)
15	中心極限定理を用いる仮説検定(大標本法)

【テキスト】

東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版会，2011年

【参考書・参考資料等】

東京大学教養学部統計学教室『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会，2008年

【事前・事後学習、時間等】

教科書本文の解説を予習し，事前に講義で取り上げる内容に関するイメージを予め作った上で，講義に出席してください。1時間半程度。
事後学修としては，教科書各章末にある練習問題に取り組み，解答作成を試みてください。1時間半程度。

【課題の種類・内容】

授業出席者に必要に応じて，EXCELによる実習課題を送付します。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義内容に関する質問は、次のアドレスで常時受け付けます。実習課題は提出期限内にメールに添付して次のアドレスまで送付してください。提出された実習課題は添削した上で返却します。masahiro@seinan-gu.ac

【成績評価方法・基準】

本講義の最終評価は，次のような基準で評価します。①講義への積極的出席態度40%，②講義ノートの整理状況30%，③課題提出30%

【履修上の注意】

前期に開講された統計学Aを履修していることが望ましい。テキストで求められている数値を，関数電卓と表計算ソフトを利用して計算し，自分でも確認するよう努めてください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	社会保障論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	熊谷 成将			

【講義の到達目標及びテーマ】

受講者の到達目標は、(1) 標準的な計量経済分析の手法を身につけ、社会保障のデータを用いて論文を作成できるようになることです。(2) 実証分析の結果に基づいて、直面している問題を解決するための方策を提案できるようになりましょう。(3) 受講者は、この目標に到達できるよう、StataもしくはEViewsのうち少なくともひとつの使い方を覚えてください。

【講義概要】

この講義の守備範囲は、厚生労働省が行っている主な統計調査(保健衛生,老人保健福祉,社会保険,社会保障等,賃金,労働時間)と重なります。医療、介護などに関するデータ(医療費の動向、社会保障給付費など)を用いて、受講者は、日本の社会保障を実証的に分析する方法を学修します。下記の講義計画に登場する論文は必読文献であり、毎回60分超の予習が必要です。『中身空っぽ』と評されている安倍政権『新三本の矢』のうち、希望出生率1.8と介護離職ゼロに関するトピックが社会保障論Aと社会保障論Bで扱われます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	社会保障の問題発見: 西村周三(2010)「日本の社会保障の未来」『医療経済研究』21(3)
2	研究課題の設定: 同上
3	回帰分析(推定): 森棟公夫(2005)『基礎コース計量経済学』新世社
4	回帰分析(検定): 同上
5	介護: 安藤道人(2008)「介護給付水準と介護保険料の地域差の実証分析」『季刊社会保障研究』44(1)
6	同上
7	花岡智恵(2015)「介護労働力不足はなぜ生じているのか」『日本労働研究雑誌』658
8	社会保障財政: 小林慶一郎 編(2018)「第1章 人口減少時代の政策決定」『財政破綻後 危機のシナリオ分析』日本経済新聞出版社
9	小林慶一郎編 (2018)「第4章 公的医療・介護・福祉は立て直せるか？」
10	同上
11	岩本康志(2018)「医療・介護サービス市場の成長と今後の展望」レファレンス 812:1-26.
12	同上
13	データの収集と加工
14	実証分析(1)
15	実証分析(2)

【テキスト】

・ミクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはStata)
北村行伸(2009)『ミクロ計量経済学入門』日本評論社
・マクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはEViews)
縄田和満(2009)『EViewsによる計量経済分析入門』朝倉書店

【参考書・参考資料等】

Brown, Heather (2018) The Economics of Public Health – Evaluating Public Health Interventions. Palgrave Macmillan.

【事前・事後学習、時間等】

上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習と復習が必要です。

【課題の種類・内容】

講義時間外に、受講者はStataもしくはEviewsを用いる実証分析の課題に取り組みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。

【成績評価方法・基準】

受講状況 (課題を含む) 50%, レポート 50%

【履修上の注意】

予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	社会保障論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	熊谷 成将			

【講義の到達目標及びテーマ】

受講者の到達目標は、(1) 社会保障論Aと同様に、標準的な計量経済分析の手法を身につけ、社会保障のデータを用いて論文を作成できるようになることです。(2) 実証分析の結果に基づいて、直面している問題を解決するための方策を提案できるようになりましょう。(3) 受講者は、この目標に到達できるよう、StataもしくはEViewsのうち少なくともひとつの使い方を覚えてください。

【講義概要】

この講義の守備範囲は、厚生労働省が行っている主な統計調査(保健衛生,老人保健福祉,社会保険,社会保障等,賃金,労働時間)と重なります。医療、介護などに関するデータ(医療費の動向、社会保障給付費など)を用いて、受講者は、日本の社会保障を実証的に分析する方法を学修します。下記の講義計画に登場する論文は必読文献であり、毎回60分超の予習が必要です。『中身空っぽ』と評されている安倍政権『新三本の矢』のうち、希望出生率1.8と介護離職ゼロに関するトピックが社会保障論Aと社会保障論Bで扱われます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	少子化対策: 山口慎太郎 (2019)「第5章 保育園の経済学」『「家族の幸せ」の経済学』 光文社新書
2	同上
3	社会保険料の負担: 岩本康志・濱秋純哉(2006)「社会保険料と帰着分析」『季刊社会保障研究』42(3)
4	同上
5	A Schematic of Health Economics: Culyer, AJ. ed. (2014) Encyclopedia of Health Economics. Elsevier
6	社会的孤立: Klinenberg, E. (2016) Social Isolation, Loneliness, and Living Alone: Identifying the Risks for Public Health. Americal Journal of Public Health 106(5)
7	メンタルヘルス: Golberstein, E., Busch, SH. (2014) Mental Health, Determinants of. In Encyclopedia of Health Economics. Elsevier
8	同上
9	Kumagai, N. (2018) Care Preferences of Elderly People Living Alone in Japan. Health Education and Public Health 1(2)
10	社会保障からみた教育：末冨芳 (2020)「国際比較からみた日本の教育費 —初等中等教育費を中心に—」『社会保障研究』5(3)
11	公的介護と移民政策: 上林千恵子(2015)「介護人材の不足と外国人労働者受け入れ— EPA による介護士候補者受け入れの事例から」『日本労働研究雑誌』662
12	同上
13	実証分析(1)
14	実証分析(2)
15	まとめ

【テキスト】

・ミクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはStata)
北村行伸(2009)『ミクロ計量経済学入門』日本評論社
・マクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはEViews)
縄田和満(2009)『EViewsによる計量経済分析入門』朝倉書店

【参考書・参考資料等】

Culyer, AJ. ed. (2014) Encyclopedia of Health Economics. Elsevier
友原章典 (2020)『移民の経済学 雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか』中公新書

【事前・事後学習、時間等】

上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習と復習が必要です。

【課題の種類・内容】

上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習が必要です。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。

【成績評価方法・基準】

受講状況 (課題を含む) 50%, レポート 50%

【履修上の注意】

予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	財政学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	近藤春生			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義の目的は、大学院レベルの財政学、公共経済学関係の論文を理解する上で必要となる基礎知識を学び、学位論文を書くための問題意識を醸成することである。

【講義概要】

テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	市場と政府
3	国民と投票
4	政党と政策(1):政党の行動、政権交代
5	政党と政策(2):政党の数と大きさ、連立政権
6	規制
7	外部性
8	公共財
9	公共支出の効果
10	課税(1):直接税と間接税、課税体系の考え方
11	課税(2):最適課税の理論、消費税増税の政治経済学
12	財政赤字と公債
13	年金
14	再分配政策
15	まとめ

【テキスト】

井堀利宏『基礎コース:公共経済学　第2版』(新生社、2015年)

【参考書・参考資料等】

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)

【事前・事後学習、時間等】

・事前にテキストを十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分)
・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分)

【課題の種類・内容】

必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。

【成績評価方法・基準】

報告(50%)、確認テストまたは期末レポート(50%)で評価する。

【履修上の注意】

少なくとも学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識が必要である。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	財政学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	近藤春生			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義の目的は、大学院レベルの財政学、公共経済学関係の論文を理解する上で必要となる基礎知識を学び、学位論文を書くための問題意識を醸成することである。

【講義概要】

テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	ガイダンス
2	地方財政入門
3	地方財政の機能
4	地方財政の理論(1):分権化定理、「規律づけ」としての競争
5	地方財政の理論(2):地域間外部効果、自治体規模の決定
6	地方分権の経済的・政治的帰結(1):地域経済の活性化、分権化と政府のアカウンタビリティ
7	地方分権の経済的・政治的帰結(2):公共部門のガバナンス
8	地方税と地方の財政責任(1):わが国の地方財、望ましい地方税の条件
9	地方税と地方の財政責任(2):租税外部効果の理論、地方税にふさわしい税源は？
10	政府間財政移転の理論(1):政府間財政移転のタイプと機能、財政移転の経済効果
11	政府間財政移転の理論(2):地域間財政力格差の是正、政府間補助金の政治経済学
12	わが国の政府間関係の実際と課題(1):政府間財政移転制度入門、国庫補助負担金制度
13	わが国の政府間関係の実際と課題(2):地方交付税制度の実際、地方債制度
14	地方分権改革に向けて
15	まとめ

【テキスト】

佐藤主光『地方財政論入門』(新生社、2009年)

【参考書・参考資料等】

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)

【事前・事後学習、時間等】

・事前にテキストを十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分)
・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分)

【課題の種類・内容】

必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。

【成績評価方法・基準】

報告(50%)、確認テストまたは期末レポート(50%)で評価する。

【履修上の注意】

少なくとも学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識が必要である。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	金融論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

金融市場の制度と歴史を概観し、金融システムについて基礎知識を習得する。フィンテック、ブロックチェーンの進展を学び、今後の新しい動向を説明できる。

【講義概要】

戦後の金融システムと金融行政、金融自由化の進展、バブルと不良債権問題、金融制度改革の動向について解説する。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	貨幣について
2	間接金融と直接金融
3	決済システムの仕組み
4	戦後の金融システム：銀行規制について
5	高度成長下の金融システム：護送船団方式
6	ドルショックとオイルショック
7	2つのコクサイ化：国際化と国債化
8	金融自由化について
9	バブルと不良債権問題について
10	金融機関の合併
11	米国サブプライム問題：リーマンショック
12	欧州通貨危機
13	フィンテックについて
14	ブロックチェーンについて
15	キャッシュレス、暗号通貨、新しい貨幣経済

【テキスト】

なし

【参考書・参考資料等】

『金融論』家森信善　中央経済社（2016）

【事前・事後学習、時間等】

Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。復習問題を毎回課す。2時間

【課題の種類・内容】

レポートは3回、授業の要約と内容の発展について

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。

【成績評価方法・基準】

レポート60点　（課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点）　発表40点、（論理的展開20点、提示手法の工夫20点）の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。

【履修上の注意】

日頃から、株価、為替レート、金利の動向に注視してください。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	金融論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

金融政策とファイナンス理論の基礎、フィンテックについて学習する。デリバティブ商品の価格を計算できるようになる。

【講義概要】

金融政策分析のため、マクロモデルを用いる。ファイナンス理論として、ポートフォリオ理論とCAPM、そしてデリバティブである先物、オプション、スワップを取り上げる。さらにフィンテック理論としてビットコインとブロックチェーンを取り上げる。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	金融政策の基本
2	マクロ経済モデルIS-LM
3	マクロ経済モデル　物価水準決定モデル
4	アベノミクス　マイナス金利　MMT理論
5	資産選択理論
6	デリバティブについて
7	ヘッジ、裁定、投機　裁定原理
8	先物市場　先物価格の理論
9	オプション理論
10	スワップ取引　金利スワップ　通貨スワップ
11	イールドカーブと債券価格について
12	フィンテックについて
13	暗号通貨、ビットコイン、イーサリアム
14	ブロックチェーンの構造
15	まとめ

【テキスト】

野口悠紀夫『ブロックチェーン革命』 日本経済新聞社(2017)

【参考書・参考資料等】

木島正明『金融工学』(日経文庫、2002年)

【事前・事後学習、時間等】

日々、為替レート、日経平均株価、ダウ指数の動向を注視すること。
Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。復習問題を毎回課す。2時間

【課題の種類・内容】

レポートは3回、授業の要約と内容の発展について

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。

【成績評価方法・基準】

レポート60点　(課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点)　発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。

【履修上の注意】

高校数学以上の内容については、解説します。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	金融論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

証券市場(株・債券)、外国為替市場、デリバティブ市場の機能と仕組みを理解する。資産価格決定の理論の基礎を習得する。特に無裁定理論であるファイナンスの基本定理を理解する。フィンテックの動向、ブロックチェーンの仕組みを理解する。

【講義概要】

証券市場・デリバティブ市場の実際と理論分析、ポートフォリオ理論、CAPM、オプション理論、ブロックチェーンの仕組み

【講義計画内容】

No.	講義計画	No.	講義計画
1	証券市場1:株式市場	16	債券価格の計算方法
2	証券市場2:債券市場	17	割引債と利付債　パー債券
3	外国為替市場の現実	18	イールドカーブとは
4	デリバティブ市場1　先物・先渡し	19	金利スワップ　スワップレートの求め方
5	デリバティブ市場2　オプション	20	通貨スワップ　テナースワップ
6	デリバティブ市場3　スワップ	21	フィンテックとは何か
7	ポートフォリオ理論の基礎	22	AI とIOTによる金融システム
8	ポートフォリオ理論の実際、具体例の計算	23	キャッシュレス経済
9	CAPM	24	ビットコインについて
10	CAPMの計算、妥当性	25	P2P　分散型台帳
11	オプション理論2項モデル	26	proof of work ブロック生成過程
12	ブラック・ショールズ方程式	27	ブロックチェーンの応用
13	リスク中立価格付け	28	イーサリアムとスマートコントラクト
14	無裁定原理	29	新しい貨幣論について
15	ファイナンス理論の基礎	30	まとめ

【テキスト】

木島正明『金融工学』(日経文庫、2002年)

【参考書・参考資料等】

野口悠紀夫『ブロックチェーン革命』 日本経済新聞社(2017)

【事前・事後学習、時間等】

事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。理論モデルの学習には計算が必要です。必ず計算問題を解くこと。
2時間

【課題の種類・内容】

レポートは3回、授業の要約と内容の発展について

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。

【成績評価方法・基準】

レポート60点 (課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点) 発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。

【履修上の注意】

なし

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	外国語資料分析	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

この授業の到達目標は、国際的機関等から英語で発信される経済情報および英語のアカデミックな情報を速やかに処理できる能力の修得となります。これは、経済問題の研究だけでなく、高度な職業人としても求められる重要な能力の1つであり、その涵養が講義のテーマになります。

【講義概要】

講義では、日本経済、米中貿易摩擦、キャッシュレス経済、フィンテック等の主要項目ごとにいくつかの英語資料を配布し、それを読みこなしていくという方法で進められます。受講生に概要を報告してもらい、その資料に含まれた含意や検討すべき点等を解説します。なお、終盤では受講生には1つのテ項目を選択してのレポートを提出してもらいます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	講義の進め方の確認（レポートの指示を含む）
2	日本経済：アベノミクス
3	日本経済情勢：日銀レポート英語版
4	日本の財政状態：国際機関(IMF)からの情報
5	日本経済：Finanncial Times
6	日本経済：Stock market report
7	日本経済：Wall street Journal
8	世界の貿易：国際機関からの情報
9	米中貿易摩擦：主要新聞等の記事
10	米中貿易摩擦：国際機関からの情報
11	米中貿易摩擦：専門家の分析報告
12	Fintech reports
13	Bitcoin: About Cryptocurrency
14	Blockchain economy
15	レポート概評

【テキスト】

なし

【参考書・参考資料等】

事前に次の回の資料を配布します。

【事前・事後学習、時間等】

事前に配布した資料を必ず読んでくること（2時間）。事後には講義を参考に自分のレポート作成を進めること（1時間）。

【課題の種類・内容】

初回の授業時に、自分のテーマを定めて読むこなう英語資料の分量等を支持して、レポートを14回目までに提出してもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

最終回に、提出されたレポートを丁寧に評価します。

【成績評価方法・基準】

各回における文献理解の程度60%、レポート40%で評価します。

【履修上の注意】

この講義は非英語圏の院生の英語の資料の理解能力の向上を目指すものなので、英語が母語の人は受講できません。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	学位論文指導Ⅰ	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

この講義は、金融システム設計とファイナンスにおける研究手法を身につけ学院論文作成の基礎能力を養成するためのものであり、研究テーマの設定方法、研究遂行上の調査分析の方法、研究結果の論文としてのまとめ方の習熟等を目標とします。

【講義概要】

代表的な研究論文を具体例として、研究テーマの設定方法と先行研究等との関連性、テーマを分析するための資料収集方法、資料やモデルの分析方法、結果を論文にまとめる際の倫理面を含めた注意点や学術論文の形式や書き方等について研究していきます。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	講義内容と進め方:リーディングリストの配布
2	研究テーマの設定方法(1)
3	研究テーマの設定方法(2)
4	研究テーマの設定方法(3)
5	先行研究との関連性の整理(1)
6	先行研究との関連性の整理(2)
7	先行研究との関連性の整理(3)
8	資料収集の方法(1)（モデルの作成方法(1)）
9	資料収集の方法(2)（モデルの作成方法(2)）
10	資料の分析方法(1)（モデルの分析方法(1)）
11	資料の分析方法(2)（モデルの分析方法(2)）
12	資料の分析方法(3)（モデルの分析方法(3)）
13	学術論文の形式等
14	論文のまとめ方(1)
15	論文のまとめ方(2)

【テキスト】

授業の初回にリーディングリストを配布します。

【参考書・参考資料等】

リーディングリスト以外に必要な資料等は、その都度指示します。

【事前・事後学習、時間等】

それぞれの文献について、その回の講義の目的に即して事前に読み込むようにしてください。
毎回の講義後に、自分の研究に活用できる部分を具体的に確認するようにしてください。

【課題の種類・内容】

レポートは5回、授業の要約と内容の発展について

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは5回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。

【成績評価方法・基準】

レポート発表:30点、(論理的展開20点、、独自の主張10点)　論文:70点　(論理性30点、明確な記述30点、独創性0点)の合計で評価します。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。

【履修上の注意】

なし

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	2	日本語
担当教員名	相模　裕一			

【講義の到達目標及びテーマ】

金融市場の理論分析　ファイナンス理論の基礎と応用　ブロックチェーンの仕組みを説明できる。債券価格を計算できる。

【講義概要】

ファイナンスの基本定理、すなわち「無裁定原理とマーチンゲール測度の存在」を基本とした資産価格決定の一般理論とその応用

【講義計画内容】

No.	講義計画	No.	講義計画
1	証券市場の均衡	16	割引債と利付債
2	状態価格とアロー証券	17	イールドカーブ
3	無裁定原理	18	マルチカーブ
4	ファイナンスの基本定理:離散モデル	19	金利スワップ
5	リスク中立確率　マルチンゲール	20	通貨スワップ
6	株価決定モデル	21	スワップレートの求め方
7	債券価格　割引債と利付債	22	ブロックチェーンの仕組み
8	期待効用理論	23	ビットコインについて
9	危険回避度　絶対と相対	24	P2P:分散型台帳
10	ポートフォリオ理論　リスク資産のみ	25	ハッシュ関数の性質
11	ポートフォリオ理論　安全資産含む	26	ブロックの形成 Proof of WORK
12	CAPM	27	Mining Gameについて　ブロックの形成 Proof of WORK
13	オプション価格理論	28	ブロックチェーンの応用
14	ブラック・ショールズ方程式	29	イーサリアムとスマートコントラクト
15	2項モデル:オプションモデル	30	まとめ

【テキスト】

Salih Neftci *An Introduction to the Mathematics of Financial Derivatives* Academic press 2000(2nd) 2014(3nd)

【参考書・参考資料等】

野口悠紀夫『ブロックチェーン革命』 日本経済新聞社(2017)

【事前・事後学習、時間等】

事前にテキストを読み、疑問点、不明な個所をは明確にしておくこと。
理論モデルの計算問題を必ず解くこと。Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読すること。復習問題を毎回課す。
3時間

【課題の種類・内容】

レポートは3回、授業の要約と内容の発展について

【課題に対するフィードバックの方法】

レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。

【成績評価方法・基準】

レポート60点　（課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点）　発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。

【履修上の注意】

なし

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	証券投資論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	丹波　靖博			

【講義の到達目標及びテーマ】

実務・研究者レベルのファイナンスの基本理論を理解し、証券投資に関する基礎知識を習得する。

【講義概要】

証券投資に関するテキストを輪読し、練習問題を解くことで理解を深める。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	株式ポートフォリオ戦略　シングルファクターモデル
2	株式ポートフォリオ戦略　マルチファクターモデル
3	株式ポートフォリオ戦略　株式ポートフォリオの運用
4	株式ポートフォリオ戦略　売買執行のリスクとコスト
5	債券ポートフォリオ戦略　債券投資分析の基本ツール1
6	債券ポートフォリオ戦略　債券投資分析の基本ツール2
7	債券ポートフォリオ戦略　債券ポートフォリオの運用
8	デリバティブと投資戦略　オプション取引
9	デリバティブと投資戦略　先物取引
10	デリバティブと投資戦略　債券先物取引
11	デリバティブと投資戦略　金利デリバティブ・リスク管理
12	投資政策とアセットアロケーション　ストラテジックアセットアロケーション
13	投資政策とアセットアロケーション　短期のアセットアロケーション
14	投資政策とアセットアロケーション　長期投資とアセットアロケーション
15	投資政策とアセットアロケーション　年金とALM・リスク管理

【テキスト】

2021年試験対策 証券アナリスト1次対策総まとめテキスト 証券分析
TAC株式会社(証券アナリスト研究会) 編著

【参考書・参考資料等】

証券アナリスト 1次試験過去問題集 2021年試験対策（日本語）
証券アナリスト研究会（著）

【事前・事後学習、時間等】

輪読のため全ての受講者は事前学習が必須。発表者はレジメの作成等が必要。関連する練習問題を事前・事後に行うこと。

【課題の種類・内容】

必要に応じ小テスト・簡単なレポートを実施する可能性がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、報告内容について担当教員よりコメント及び内容確認の詳細な質問を行う。指定した課題については回答例をMoodleに掲示するか、理解度に応じて講義内にて補足の説明を行う。

【成績評価方法・基準】

発表60%、授業内質疑応答20%、授業内課題20%。
無断欠席や正当な理由のない欠席をすると，単位が認定されない場合があります。

【履修上の注意】

相談時には事前にメール等で相談日時を調整してください。その際、相談の概要と相談者の在学番号・氏名もお知らせください。メールで対応可能な時は、メールで対応致します。メールアドレスは y-tanba@seinan-gu.ac.jp です。
※Moodleと学内メールは毎日確認すること。
※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。

2021年度大学院シラバス

経済学研究科　経済学専攻

講義科目名	証券投資論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	丹波　靖博			

【講義の到達目標及びテーマ】

実務・研究者レベルのファイナンスの基本理論を理解し、証券投資に関する基礎知識を習得する。

【講義概要】

証券投資に関するテキストを輪読し、練習問題を解くことで理解を深める。

【講義計画内容】

No.	講義計画
1	国際証券投資　外国証券投資の基本ツール
2	国際証券投資　国際証券投資の諸論点
3	オルタナティブ投資　オルタナティブ投資とは・証券化商品
4	オルタナティブ投資　ヘッジファンド
5	オルタナティブ投資　その他のオルタナティブ投資
6	パフォーマンス評価　パフォーマンス収益率の測定
7	パフォーマンス評価　リスク調整後収益率測定
8	パフォーマンス評価　その他のパフォーマンス評価の方法
9	パフォーマンス評価　スタイルマネジメント
10	信用リスクモデル　信用リスクのある債権の評価・格付
11	信用リスクモデル　財務諸表データに基づくデフォルト確率の推定
12	信用リスクモデル　構造型モデル・デフォルトの相関リスク
13	信用リスクモデル　クレジット・リスク・デリバティブ
14	行動ファイナンス　市場の効率性とアノマリー・行動ファイナンスとは
15	行動ファイナンス　行動ファイナンスの代表事例

【テキスト】

2021年試験対策 証券アナリスト1次対策総まとめテキスト 証券分析
TAC株式会社(証券アナリスト研究会) 編著

【参考書・参考資料等】

証券アナリスト 1次試験過去問題集 2021年試験対策（日本語）
証券アナリスト研究会（著）

【事前・事後学習、時間等】

輪読のため全ての受講者は事前学習が必須。発表者はレジメの作成等が必要。関連する練習問題を事前・事後に行うこと。

【課題の種類・内容】

必要に応じ小テスト・簡単なレポートを実施する可能性がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回、報告内容について担当教員よりコメント及び内容確認の詳細な質問を行う。指定した課題については回答例をMoodleに掲示するか、理解度に応じて講義内にて補足の説明を行う。

【成績評価方法・基準】

発表60%、授業内質疑応答20%、授業内課題20%。
無断欠席や正当な理由のない欠席をすると，単位が認定されない場合があります。

【履修上の注意】

相談時には事前にメール等で相談日時を調整してください。その際、相談の概要と相談者の在学番号・氏名もお知らせください。メールで対応可能な時は、メールで対応致します。メールアドレスは y-tanba@seinan-gu.ac.jp です。
※Moodleと学内メールは毎日確認すること。
※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814－8511　福岡市早良区西新6丁目2番92号
TEL　092－823－3368
FAX　092－823－3348
e-mail　gra-jimu@seinan-gu.ac.jp